様式第３号

# 会 議 録

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 会 議 名<br>（付属機関等名） | | 令和5年度　第1回川西市参画と協働のまちづくり推進会議 | | |
| 事 務 局（担当課） | | 参画協働課 | | |
| 開 催 日 時 | | 令和5年6月29日（木）午後７時から午後８時半 | | |
| 開 催 場 所 | | 川西市役所　2階　202会議室 | | |
| 出席者 | 委 員 | 岩崎恭典、田中晃代、久保田啓子、細見美咲、石伏淳子<br>大西僚、京極光泰、名畑龍史、丸谷満、山中彩永 | | |
| | そ の 他 | 市民活動センター（男女共同参画センター）：指定管理者<br>三井ハルコスーパーバイザー、吉尾豊スタッフ | | |
| | 事 務 局 | 井上公室長、西川副公室長、<br>岸本参画協働課長、山元同課課長補佐、長見同課主任 | | |
| 傍聴の可否 | | 可 | 傍聴者数 | ３ 人 |
| 傍聴不可・一部不可の場合は、その理由 | | | | |
| 会 議 次 第 | | １ 開会<br>２ 議事<br>（1） 第３期川西市参画と協働のまちづくり推進計画における必要な取り組みについて<br>（2） 第３期川西市参画と協働のまちづくり推進計画の構成案について<br>３ その他<br>第３期川西市参画と協働のまちづくり推進計画策定スケジュールについて<br>４ 閉会 | | |

19：00～

**１　開会**

**○事務局**

事務局進行

松原利明様の委員就任の報告

事務局職員を紹介。

川西市参画と協働のまちづくり推進条例第10条の規定により、本会議は公開となる。

なお、本日は委員が３名欠席と１名遅れての出席連絡をもらっている。

出席委員は、定数１３名中９名（１名WEBによる出席）

本日は、川西市市民活動センタースーパーバイザー三井ハルコ様、市民活動担当スタッフの吉尾豊様が、オブザーバーとして、出席。

それでは、ここからは岩崎会長に進行をお任せする。

**○岩崎会長**

事務局から報告いただきましたとおり、本日の出席委員は、定数の過半数に達しており、川西市参画と協働のまちづくり推進条例施行規則第7条第2項の規定により、本日の会議は有効に成立している。

参画と協働のまちづくり推進会議の今回の大きなミッションは推進計画を策定するということである。参画と協働という考え方そのものが、なお一層鮮明に市の総合計画のひとつの大きな柱として位置づけられているということをまず確認しないといけない。

総合計画推進のひとつの大きく有力な手段として参画と協働が位置付けられている。総合計画は、市の最上位計画である。このことを踏まえながら新たな推進計画というのを作っていく必要がある。

参画と協働が総合計画の中に位置づけられているということを踏まえて、推進計画を作っていく。少し構え直した、それが少し時間をいただいた大きな原因だろうと思っている。

みなさんのお手元の資料３で、スケジュールだけ確認をしておきたい。

本日は、主として推進計画のために必要な取組みや指標の検討、構成案について議論するのが議題である。約１ヶ月後の７月２７日には、事務局の素案を検討し、答申案（計画案）を２回程で検討し１１月には答申し、年内には市民のみなさんに広く意見を聞くためパブリックコメントを実施、３月には推進計画完成を想定している。

このスケジュールを念頭において、今日は必要な取組み、指標検討、構成案について議論をしていく。

まずは昨日審議会のあった総合計画について、事務局からご説明をお願いする。

**○事務局**

参考資料（総合計画）　説明

**○岩崎会長**

みなさんとこれまで議論してきたこと、例えばどうやって市民を巻き込んでいけばよいのか、また参画を図っていけばよいのかを色々提案いただいているが、それらも含めて総合計画に参画と協働が位置づけられ、その個別計画として、この推進計画が位置づけられていることをもう一度確認をしておきたいと思う。

今日は小施策の概要をもう少し皆さんで議論していきたい。指標については、「自治会コミュニティの活動に参加している市民の割合」が総合計画の中で示されているため、これは尊重しないといけない。毎年のアンケート調査等で把握することになると思うが、それ以外にどんな指標が、参画と協働の目標とすべき指標として考えられるか、今日はかなり自由討議に近いような感じで議論をしていきたい。それを事務局でまとめて、次回また提起していただくという形で進めたいと思う。まずは総合計画についてご意見をいただければと思う。

**○丸谷委員**

10 ページの 4 つの基本姿勢の「まず子どもの幸せから始めます」という言葉が、人によってどう響くのかなと思った。

「子」の字をひらがなに変えるだけでもすごく印象が違うと思う。ひらがなに変えると良い意味で客観的に受けとれる。イメージしやすいかなと思った。

**○岩﨑会長**

総合計画の審議会の方に伝えたり、パブリックコメントで伝えてもらえればと思う。

今の子ども達は人口が増加したことを知らないまま育っていくため、人口が減ることしか知らない。

そういった人たちは、どう感じるかということを、前提で始めることはすごく重要なことだと思う。

これから川西で育っていく。又は、日本で育っていく子ども達は人口が減っていく中で生きていく。自分で課題を発見して、自分で解決出来る力を身につける。その意味で子どもの幸せから始めると言う言い方はできると思う。

**○丸谷委員**

川西に住む子どもはみんな同じだと、多くの人がその言葉通りに捉えられるようにすればきっと納得できると思う。

確かに次世代がいないと、川西市が存続できるかどうかの話なので、これはすごく大事。次世代がいないという危機感も込めてしっかり言葉通り伝えるにはいかにしたら良いのかなと思う。

**○岩﨑会長**

子どもの幸せと言うと、この参画と協働の視点から教育の場面に地域の人が関わるのかが重要だと思う。そういった視点というのが参画と協働の中にあっても良いし、他の施策の中で指標としてあっても良いと思う。

総合計画そのものについて、何かご質問ご意見はないか。

**○京極委員**

計画の中で「ジブンイロ叶う未来」は、自治会に従事している人なら大体分かると思うが、自治会に入って調和をとろうと思えば思うほど、ジブンイロは出せない。

市民と行政、業者の橋渡しをする際、ジブンイロは消さないといけない。自治会は組織なので、それぞれが個を出すわけにはいかない。そこが矛盾してるかと。

ジブンイロを出せる市をつくりたいが、自治会への加入を勧めましょうというところがある。市が自治会に求めるものと、市民が自治会に求めるものに食い違いが発生して

いる。それぞれのイロを出して気持ちを伝えようと思うと、そういう訳にもいかないことになる。

その歯がゆさを自治会長の時に感じ、市民に自治会に加入してほしいと同時進行に、市が自治会に求めるものも改めて考え直さないといけないと感じる。

市が各々の自治会や一般団体、NPO 法人に対して今こういうサポートができるので是非利用してくださいと言うものが、違うものもある。そこを振り返って、「ジブンイロ叶う未来」を推し進めてほしいと思う。

**○岩﨑会長**

自治会だけではなく、色々な NPO の動きもあるだろうし、コミュニティの中で自分の得技を生かしていく、そういうかたちでジブンイロが叶うようなことがあればいいとも思える。

市として自治会に何を期待するのかという部分は、少しはっきりさせておく必要があるかもしれない。ジブンイロの部分でそういう意見が出ました。その次のページはジブンゴトの話がある。

**○名畑委員**

「ジブンゴト」とカタカナで出てきて、漢字で書くと「自分事」だが、最初の一行目は漢字があっても分かりやすいかと思う。

強調するためにカタカナにされてると思うが、漢字表記があっても良いかなと思った。

「ジブンイロ」というのは、あまりピンと来ない表現である。言いたいことはなんとなく分かるし、「ジブンゴト」と比べるとあまりメジャーではない気がしてイメージが持ちにくかった。皆さんに川西市が発信したい意味が伝わるのかなと感じた。

５ページの右下に「枡井ドーフィン」といういちじくの説明がある。これは、川西が発祥だったと思うが、三ツ矢サイダーは発祥の地と書いてあるので、アピールすれば良いと思った。

**○岩﨑会長**

「ジブンイロ」は、自分らしく生き生きと輝けるといった意味だと思うが、「ジブンイロ」「ジブンゴト」といったかなり凝った言い回しになっている。

**○石伏委員**

総合計画拝見し、自治会に期待をされてると感じた。11 ページの「１人ひとりに安らげる居場所や充実した時間」要するに居場所。また資料２で自治会やコミュニティ活動に参加している割合の目標値が５０％。半分ほどの自治会やコミュニティ活動に参加してほしい、活動してほしいとある。私の加入する自治会の会館が取り壊しになり、代替施設もなく、近くの公民館を時間で借りてくださいといったお話になっている。活動する拠点というのをもう少しなんとかしてもらえないのか、もう少しサポートをしていただきたいと感じた。

**○岩﨑会長**

市は自治会に何を期待しているのか、そのためにはどんなサポートが必要なのか、同じように市にはコミュニティがある。コミュニティに何を期待しているのかといったことははっきりしておく必要があるということになる。

**○京極委員**

デザインがオシャレだと思うが、見せ方がオシャレに気を取られすぎて伝えるものが伝わらなければ本末転倒である。どこともホームページとかある話なのでそこだけ気をつけていただければと思いました。全体的には字数も少ないし見やすく、素晴らしいデザインレイアウトになってると思う。

**２　議事（1）第 3 期川西市参画と協働のまちづくり推進計画における必要な取り組みについて**

**○岩﨑会長**

それでは、次第の「２　議事（1）川西市参画と協働のまちづくり推進計画における必要な取り組みについて」事務局より説明をお願いする。

**○事務局**

資料１説明

**○岩崎会長**

前回の議論を受けてまとめるとこのようなかたちだが、これをベースに参画と協働の今回の計画の中で特に重視していく必要がある箇所について、ご意見をいただきたい。

＜委員からの発言〉

**○丸谷委員**

参加するというのは運営側になってもらうということか。

どれくらいの熱量が参加になるのか、市としてはどうだったか。

**○事務局**

単に参加という話だけであれば、捉え方によって、少しブレも出てくると思っている。

ただ今回で言えば、例えば自治会などの役員はいきなりなれるものではないと思っている。

自治会の活動に興味を持って、例えばクリーンアップのようなものに参加して、継続的に参加している、行事ごとに参加していく、このあたりを参加してると捉えていただく。そこから顔なじみになり、他にはこういう活動している、居心地が悪くない場所になり、運営の方にも関わっていく人がだんだん増えていけば良い。

**○岩崎会長**

コミュニティとか自治会がやっているお祭りに参加すれば、それは「参加」だということ。

**○丸谷委員**

来場者としても来てるから、頑張れば目標値５０％いけるかもしれない。運営側だけの話かなと思ったので、目標値５０％にはびっくりし、なかなか厳しいと思った。高い目標はすごく良いとは思う。市民には逆に参加というのがもっとライトな話であるということがもう少し分かりやすくなれば良いと。

この委員をしている私ですら運営側までいかないと参加にならないと思うので、それがもう少しライトに伝わった上で５０％となると、がんばろうと思う。運営側になることが参加すると認識するとしんどいものがあると思った。

**○岩﨑会長**

小施策を代表する指標の自治会、コミュニティの活動に参加している市民の割合は、おそらくアンケート調査で聞くことになる。アンケート調査の聞き方として、例示をある程度しないといけないであろう。

地域の行事に参加したことがあるかないかという聞き方、要するにライトな聞き方で参加をしているのが５０％を目指す。

資料１でいうと、積極的に参加しているというのが、ある意味運営側にまわる話であって、ここが増えることはすごく重要だが、これを指標に出すことはなかなか難しいだろう。

ただ、ここが増えていかないと、地域団体の高齢化の話や、活動する人の先細りは解決出来ない。ここも何らかのかたちで指標にはしたい部分。積極的に参加している人の割合みたいなものがあれば良い。

**○丸谷委員**

ライトであればもう少しいるかもしれない。逆に来場者として参加したことも市民がコミュニティ活動に参加していると言える感覚があるのかなと思った。積極的に運営もやってますという方と、これくらいでも参加していると思って良いということが一緒に浸透すれば良いかと思う。

**○岩﨑会長**

もうひとつライトな参加と実際に運営を担っているという人の割合みたいなものが指標としてできれば、それに越したことはないと思う。

**○丸谷委員**

来場のみだったのか、運営での参加なのか○をつける感じであれば、増やしていけそうな気がする。

**○山中委員**

配付いただいた総合計画の資料は、どこかに置かれて市民が見るというものか。

**○事務局**

市の総合計画ですので、市職員だけが見るのではなくて、広く市民の方に見て頂きやすいかたちとなっている。総合計画自体も終盤になってきているので、夏頃にはパブリックコメント等を実施して、みなさんに意見をもらう予定。

**○山中委員**

先ほどの参加の話ですが、人の考えの違いによると思う。イベントに参加することを参加に含めるのであれば、総合計画の２～３ページ目に開催イベントのプラットホームを作り、QRコードを貼って、そこから誰でも簡単にアクセスして参加出来るようにすれば参加率も上がっていくのではないかと思う。

**○岩﨑会長**

QRコードを含めて、参加しやすい仕組みというのは常々考えないといけないことだと思う。

**○丸谷委員**

確かに特産品の記載があるならイベントの記載もいいと思う。

**○大西委員**

資料２の基本計画に小施策を代表する指標が1番右にあるが、この指標というのは他にもずらっと並ぶのか、それとも指標はひとつか。

**○事務局**

その小施策については、今回についてはひとつと考えている。もちろん他の小施策もあるので、それらの指標は並んでくる。

**○大西委員**

小施策の概要に、市民や公益活動団体などの記載がある。小施策の概要は色んな人がいる記載に対して、指標名は自治会とコミュニティだけになると狭まるイメージがある。私はNPOをやっているが、コミュニティや自治会の方と話はしますが、参加はしてない。少なくとも指標名の割合には入らない、事業者や市民活動センターで活動してるグループがここに入らないとなると、概要と意図が違ってしまうよう感じた。

**○事務局**

ひとつの指標でこの小施策すべてを表現して確認していくことは難しいことだと思う。何個か指標を並べることもあるかとは思うが、一定割り切ったかたちにはなるが、総合計画の担当で絞り込み、代表となるような指標を選択させていただいている。

全てが表現出来てる訳ではないのは重々承知している。

**○大西委員**

コミュニティというのはコミュニティ協議会を指すイメージで合っているか。

**○事務局**

川西市のコミュニティ協議会を考えている。

**○岩﨑会長**

資料２の参考資料１、様々な指標について説明お願いする。

**○事務局**

資料２の参考資料１を説明

第２期の推進計画の指標を掲げているが、事務局として見直しをしていきたいと考えている。

**○岩﨑会長**

この中で次の第３期にも生かしていくものや仕分けをしておく必要があるということか。

**○事務局**

先ほど総合計画には小施策を代表する指標ということで掲げているので、その指標は第３期の推進計画の方にもあげさせていただくことにはなる。

**○岩﨑会長**

自治会、コミュニティ、ボランティア、NPOの地域づくり活動においてお互いに支え合っていると思う市民の割合は実感調査で聞くのは、これからもずっと必要かもしれない。

**○事務局**

実感の部分が主観的なアンケートの結果になっているかと思う。その辺りは割と数字がぶれたりする。

主観的な評価、アンケートをすることが良いのか、客観的に割り切ったかたちで聞いていく方が良いのか。もしくは、講座受講者数みたいなものとするのか。

考え方はあるかと思う、実際第２期の中にあるものを参考として示している。行動的なところで聞いた方が良いのかと今少し思った。

ただ、実感の部分は重要との意見もあると思うので、検討のうえ、次回以降にお示しし、そこでご意見をいただき、それを踏まえて進めたい。

**○岩﨑会長**

指標の話になっているが、何かお考えがあるか。

**○名畑委員**

委員のお話は、資料２参考資料１の１と２合わせた数字が結局何％なのか聞きたいのかと思う。

例えば令和４年の数字で言うと30.8％と9％なんで、単純に足すと39.8％ですが、両方している方も多いと思うので、実際は33％とかになるのかと思う。知りたいのはここだと思う。

今度のアンケートでそれを聞くことは出来るのか。それとも、毎年定点観測しているから、質問は変更できないのか。

**○事務局**

毎年これで観測をしているが、ただ変えるなら今のタイミングというのはひとつの考えでもある。

聞き方によってはボランティアもそれが何か、とかいうことにもなる。例えば自治会がボランティアなのか、聞き方や項目の作り方が大事になってくる。

**○名畑委員**

先ほどの参加の定義や、ジブンゴトのような話だと、ここまで細かく分けても綺麗に聞けないのではないかと思う。特にボランティアやNPOは、結構範囲が広いと思う。それならば、一緒に自治会やコミュニティの活動に参加している人に聞いたら、参加の定義とかジブンゴトの話にも繋がりやすいと思う。

**○久保田委員**

自治会やコミュニティやNPOとか、意識の高い人に向けての色んな方法をされていて、指標に関しても見やすいと思う。新しい人に向けても取り込み方、期待をもってもらう、運営側になってもらう、魅力あることを伝えられないかと思った。

**○事務局**

関心があるが知らない、関心があり知っているが参加していないという方に、いかに関わってもらえるかということを、市民の皆さんが、団体が、市が出来ることを、第３期計画にどう組み込んでいくのか、今までもご議論いただいてきたかと思う。

総合計画については、市の1番大きな計画の中に色々な個別計画があり、小施策のひとつで参画・協働が出ている。その部分について推進計画という個別計画を定めてやっていくかたちになっている。総合計画で表現しきれない部分はどの分野においてもあると思うので、推進計画では、総合計画を踏襲しながら、中身の部分を考えていこうというかたちになる。

**○岩﨑会長**

資料１の取組みの部分は、ひとつはその結果としてアンケートで実感をはかるのか、それとも活動指標にするのか。その取組みを沢山入れておく中でアンケートの報告書に

出てくると思う。この取組みの部分で何か書き足さないといけないことがあれば是非意見を出していただきたい。指標アンケートについては次回ご提案いただきたい。

**○京極委員**

資料２参考資料１の平成２９年から令和４年までの推移を見て、自治会加入率は５６．１％から４８．９％まで下がっている。

これは小施策を代表する指標の参加する人５０％の近似値になると思うが、何をやってきたのかというのがまず第一。

何をやってきたから上がったなのか、行ったが下がったなのか。

自治会で会長職をして市とやりとりをする中で、正直何かしてもらったという気がない。

自治会側も周知しないといけない課題はあるものの、それを市がバックアップしてくれているのか。

市が何かしているのかという疑問がある中で、「知る」「興味を持つ」「参加する」とか、内部的にもっと考えられることもあるのではないかと感じる役員も多い。

自治会加入率も自治会やコミュニティの活動に参加している市民の割合も数字が下がっていること。民意が反映されているものなので、波の流れ自体もこうなのだとは強く感じる。その波が大きすぎて、この波には耐えれないというのが見えてこない。根本的なところだと感じる。

**○岩﨑会長**

自治会の活動については、自治会は任意の団体だからという立前もあり、行政としては支援というかたちで、積極的に自治会活動に介入するわけにはいかないというのがまずある。

自治会側にすると押しつけられるばかりだと安易に被害者意識になってしまう。

自治会とコミュニティとで一緒に地域の課題を解決していきませんかという提案を、市側としてはしている状況。

積極的な地域への対応の仕方が見えないので、推進計画を作ろうということでもある。

そこで姿勢を示すというスタンスを、総合計画を受けて次の推進計画ではっきりさせるのもひとつの考え方としてはあるかと思う。

地域と行政、行政が地域にいかに関わっていくことをはっきりさせる。指標では、職員が地域の活動に参加しているかどうか。重要な指標に思う。NPO、自治会にしてもこの２つの指標、職員アンケートはこれからもずっと続けてほしい。

**○細見委員**

資料１の「みんな、気がついたらまちづくりに参加している」をみんなでグループディスカッションで話し合った時に、みんな、当事者って誰だろうといった話になった。その時の資料に、最初市が下にいて、市民がいて団体があって事業者という図式がおかしい、当事者である以上は対等な関係で４つならんだ状態をお伝えした。

会議の中で私たちが出した意見は確かにここに書かれているが、市の方は実際当事者としてどういう取組みをしていこうと考えているのか。

現場の人の意見を吸い上げることも大事だが、実際に当事者になるというのは現場を見るということだと思う。「知る」「興味をもつ」「参加する」には内部の方の意見が反映されているとより良いのかなと思った。

**○岩﨑会長**

参加し、いかに日々の職務に生かしていくのか、少し考えていく必要があるのではないか。重い宿題ではあるが考えてみる必要はあるかもしれない。

法律の解釈の仕方を変えてみる、場合によっては県や国に掛け合うことが出来るのは市の職員しかいない。そのためにも市の職員の方が地域活動に参加することは、自分の仕事にも活きるのではと、いつも重要だと思っている。

今日冒頭で申し上げたように、法律や制度とか仕組みは、基本的に人口が伸びるときに出来た。法律の知識をもって行政実務を知っているからこそ公務員はそれが出来る。

それに期待をするところが大きい。みんなが参加しているところに公務員としてどのように、入るのか、一度考えてみるのは楽しいと思う。

**○大西委員**

身分を明かさず、参加出来るのは結構大事かなと思う。

委員もおっしゃってましたが、私はNPOとして、というところから入る。どうしても公の立場が優先されてしまう。言葉や行動を選ばざるを得ない。それは市の方も然りで、祭りに行ったら、多くを言われる。やる気のある職員が出かけても打ちひしがれる。こ

れはよくないと思う。それであれば、身分を明かさず参加できる、まずは入りやすさを優先する。そこで色んな人が身分を明かさずに話せる。参加のハードルを下げることにより、交流が生まれてくる。

そして一定知り合いになったタイミングで、実は私市の職員、実は私NPOの人、だからこんなことが一緒に出来るという話が出てくる方が、私は現実的かなと思う。

視点を変えるという意味では新しいきっかけになるのではないかと思い、案をあげさせていただいた。

**○岩﨑会長**

公務員が地域に行くと多くのことを要求される。庁内からあまり外には出したくないという風習は、公務員一般にそうなっている。

それを今委員がおっしゃったように、明かさずにやってみるというのも、ひとつのやり方だと思う。もうひとつは、地域の活動に入っていく際に、はっきりとした立場を市として明らかにする。

明かさないのか、それともはっきりさせるのか、いずれかにした方がいいということ。中途半端になると、地域で色々な狭間に入ってしまう。そのどちらかが地域に出て行く条件ではないかとお話を聞いて思った。

**○田中委員**

総合計画の中の参画・協働は、主体も多様であり、分野も多様なはず。

どの分野に対しても串刺しになると思う。例えば資料２参考資料１では、出てくる主体も限定されており、分野も地域活動や地域づくりとかに限定されている。整合性はどうなのかということが気になった。

先ほど自治会とかコミュニティへの参加とか加入とかが指標にあがっていたが、活動に参加しているのは限定的。

総合計画の中の協働・参画はすべての分野の串刺しであると考えるが、これは指標として成り立つのかどうか、評価する時にそこのところが重要だと思う。

総合計画の中では、それぞれの部署が計画づくりをしているが、総合的な計画は、それがいかに他部署が連携しながら施策を展開していくことを考えないといけない部分もあって、その部分が少し違うと思った。

まちづくりという言葉は地域づくりや地域活動だけではないし、分野としても、自治会とかコミュニティとかNPOだけの問題でもない。もう少し広い範囲だと思う。

資料１でも地域活性化のためにまち歩きや挨拶をする、散歩をする、こういった活動も入っている。その点が整合性がないといった印象を受けた。そもそもまちづくりというのはどういうもので、参画と協働とどういう関係になっているのかといったことが、お伺いしたい。

**○岩﨑会長**

私も同じこと思っていて、参画と協働って横串しだと思う。

子どもから始めると、まずは小学校や中学校の教育に、地域の人がどのように関わっているのか、ひとつの大きな参画と協働の側面になるだろうと思う。

例えばコミュニティスクール、学校運営協議会、学校評議員が地域で公立の小中学校を盛りたてる仕組みが出来ていて、事業支援、学校図書館の運営であったり、中学校では、クラブ活動の外部指導者をどれだけ確保したとか、活動指標につながっていくのも参画と協働のひとつの大きな側面。

高齢者福祉で言えば高齢者の様々な生活支援の仕組みを地域でやっているといった参画と協働の具体的な方向があるはず。

他の施策の中で示しているアンケートの結果、指標が参画と協働の方の指標にも使える部分もあると思う。具体的な事業の方から、総合計画に参画と協働を位置づけているのであれば、トピックとして出しておいても良いかなとも思う。

**○田中委員**

私は、庁内の他部署同士の関係性やつながりはどうなっているのかと気になる。

分野ごとに縦割りになっていると、それをつなぎ合わせるのが参画と協働だと思っていた。例えば環境活動をしていて、学校教育と環境の分野ってすごくつながっている。そこの部分の参画と協働をどう考えるのか、総合計画の中に表現出来ているのか、行政の職員がどういう姿勢なのか、縦割り組織をいかにつなげていくのか、協働のひとつの指標ではないかと同じような考え方を感じた。

**○岩﨑会長**

今までの推進計画は、地域コミュニティ、NPOであるといったターゲットをはっきりさせていたが、それを少し総合計画の横串の観点から事業をつないでいくものとすることはできないかということ。

**○田中委員**

地域づくり推進であれば今のものでも良いと思うが、まちづくり推進という言葉であれば、分野ごとの整合性や分野ごとのつながりということも必要だと感じた。

市の職員の方でも、チームで動くことを実際にやられているため、そのような部分をもう少し強調し、やっているということを、総合計画も含め示すことは重要と思う。それが信頼関係をつくるということでもある。

**○岩﨑会長**

参考資料２は推進計画の案、イメージはこんな感じですが、今日の話でいくと、目標や推進計画の考え方も、少し事務局の方でも議論していただきたい。

**○丸谷委員**

総合計画の資料ですが、おしゃれなテイストで作られている。川西市がこのような生活が出来るように目指しますといった全部の文章が終わっている。イラストの中に出てくるのが市民的な人なので、市民に自分の立場でこんなまちになるんだっていう希望を持って欲しいといった冊子であれば、市民の笑顔が載ってるとすごく印象は良いが総合計画って基本方針なので、まだ具体的なことは出てない。

市民がこの笑顔になるにはどうするのかといったところが書けていない。市民の笑顔ばかりを載せすぎているのではないかと感じた。

市民の笑顔というよりも、もう少し川西市全体を表現するようなつくりの方がいいのではないかと感じた。

この笑顔につなげるには、何をしてくれるのか、何の実績があるのという議論になっていくのではないかと思う。川西市の指標が表紙でも良くて、逆にその方が分かりやすいかなと思った。

市民に寄り添いたいという気持ちと、市民が求める市は何をしてくれるのかが、この冊子づくりの中では難しいのではないかと思った。

市民に手渡されるというかたちでしっかり作るのであれば、PDFとしても読めるようにし、webにも載せて多くの人にみてもらえるように、最後まで見届けていけたらいいと思った。

**○岩﨑委員**

参画と協働というのは、結局市は何をしてくれるんだと同時に、私たちがやると市はこういうことやるといった、フィフティフィフティの関係でもある。

総合計画は全部の行政分野にかかるから、行政が主導せざるを得ない部分がある。例えば商工業の振興は、行政がやることは限られていて、民でやらなくてはいけない。

一方、税金を徴収する事務は民では出来ない。行政が何をやるのかは分野によっても違うし、それをひとつの冊子で表さないといけないところに辛さがある。

そのため、ファミリーを描くことになるが、その中で参画・協働といった徴税事務は別として、色んな施策の民と行政をつなぐものとして機能することを、第３期の推進計画では強調した方が良いのではないか。

総合計画にそのように書いてくれているというのが今日のひとつの結論ではないかと。

課題としては大きいが、今日の議論をベースにまた市の方でも検討していただいて、次回に期待をしたい。

資料２の構成案について、何かあれば事務局まで意見をお願いする。

本日はここまでとさせていただきたいと思う。

**３　閉　会**

**○事務局**

次回の推進会議は、７月 27 日開催を予定。